

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2021年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	講談資料コレクションの収蔵とデジタル整備 — 講談師・初代悟道軒圓玉日記の翻刻校注を出発点として—
研究代表者	奥野 久美子（大阪市立大学 文学研究科 准教授）
共同研究者	橋本 唯子（和歌山大学 クロスカル教育機構 教養・協働教育部門／図書館副館長・准教授） 久堀 裕朗（大阪市立大学 文学研究科 教授） 佐賀 朝（大阪市立大学 文学研究科 教授） 菅原 真弓（大阪市立大学 文学研究科 教授） 高橋 圭一（大阪大谷大学 文学部 教授） 西田 正宏（大阪府立大学 人間社会システム科学研究科／上方文化研究センター 教授）

研究成果

本研究では、近代大衆文芸研究の環境整備を目的とし、吉沢英明氏のコレクションの基礎調査と、本学への受入れ（寄贈）と整備、一部資料のデジタル化、および研究活用を目指した。吉沢英明氏は、約半世紀にわたり講談など大衆演芸の研究を続け、資料を蒐集してきた研究者であり、講談本を中心とするその蔵書、すなわち〈吉沢コレクション〉は、質量ともに他の追随を許さない私的コレクションである。文学研究科では 2021年度、吉沢氏よりこのコレクションの寄贈を受けた。本共同研究により、それら数万点の資料の搬入を完了し、整備を進めることができた。

具体的には、2021年7月と8月に埼玉県にある吉沢氏の書庫へ研究代表者と共同研究者数名で出張し、資料の選別をしたうえで、8月末に受贈資料を本学と大阪府立大学に分けて搬入した。受贈資料はダンボール等で合計 667 箱に及んだ。その後は虫害対策等の資料保管環境を整えながら、目録をとる作業を進めているほか、2022年4月に開設される文学研究科特設 HP に掲載する資料解題の執筆も、代表・共同研究者で続けている。その資料解題には、本研究課題に含まれる「初代悟道軒圓玉日記」のデジタル画像と解題も含まれている。当初目指していた翻刻校注は、完成までには至らなかったが、資料解題は書くことができた。

斯界随一の蒐集・研究者である吉沢氏のコレクションの一括受贈は、学界への影響も大きいため、2022年2月に広報課を通じて大学 HP で受贈を公表した。また 2022年2月20日（日）に、大阪在住の上方講談師、旭堂南海師を招き、吉沢コレクション受贈報告イベントを zoom で開催した。学内や関係者に限った小規模なイベントとして企画したが、当日は参加者 60 名を超える盛況で、吉沢コレクションへの学界の関心の高さがうかがわれた。また、南海師をはじめとする現役の講談師が、講談の創作に活用するために吉沢コレクションの整備公開を待ち望んでいることも明らかにされ、コレクションが今後、学界のみならず演芸界でも活用されることが大いに期待された。

◇研究業績

(1) シンポジウム開催

『上方・大阪都市文化の研究拠点形成—新収 吉沢コレクションを中心に—』

【日時】2月20日（日）14時～ zoom 開催（参加者約 60 名）

【プログラム】

- ・はじめに：西田正宏（大阪府立大学高等教育推進機構教授・副学長）
- ・大阪公立大学蔵 古典籍の資料性：西田正宏
- ・吉沢コレクション受入れ報告—講談本と近代文学の関係に触れつつ—：奥野久美子（大阪市立大学文学研究科准教授）
- ・吉沢英明氏の人と仕事：高橋圭一（大阪大谷大学文学部教授）

- ・旭堂南海師に訊く：旭堂南海（講談師）聞き手：西田正宏・高橋圭一・奥野久美子
- ・口演 一旭堂南海師による講談実演・大阪ゆかりの演目から一：旭堂南海

（２）研究成果報告論集『上方・大阪都市文化の研究拠点形成—大学アーカイブの整備と発信—』（西田正宏・奥野久美子編 2022年3月、URPブックレット「先端的都市研究」シリーズ34、大阪市立大学都市研究プラザ）

収載業績（本研究課題に関するもの）

第1章 大阪公立大学蔵古典籍の資料性（西田 正宏）

第2章 〈吉沢コレクション〉受入れと整備の報告（佐藤 敦子・佐賀 朝・奥野 久美子・橋本 唯子）

第3章 吉沢英明氏の人と仕事（高橋 圭一）

第4章 旭堂南海師に訊く（旭堂 南海ほか）